



犬との暮らし ワン！ダフルレシピ

メニュー

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. はじめに | 12. 犬の会話 |
| 2. 動物から受ける癒し効果 | 13. カーミングシグナル |
| 3. 犬種の特性 | 14. カーミングシグナルの活用 |
| 4. 犬と法律 | 15. 子どもと犬 |
| 5. 理想的な犬選び | 16. ほめてしつける |
| 6. 飼育環境と準備するもの | 17. 失敗をさせない |
| 7. 健康管理 | 18. ごほうび |
| 8. 健康チェックと手入れ | 19. アイコンタクト |
| 9. リーダーとルール | 20. 基本動作 |
| 10. 落ち着いた犬 | 21. 予防医療 |
| 11. 優しくなでる | 22. 飼い主の心構え |



1. はじめに

豊明市に登録されている犬は 4,500 頭を越え、6 軒に 1 軒が犬を飼っていることとなります。(23 年度末)

家族の一員として子犬を迎える世帯が年々増え続ける一方で、犬との付き合い方に悩んでいる飼い主さんが、たくさんいらっしゃるようです。

犬は昔からわたしたちの周囲にいて、とても馴染みの深い動物ですが、庭につないで番犬として飼っていた頃に比べ、室内で人と密着した飼い方に変わりつつある今は、無駄吠えにはじまる犬のしつけや、人畜共通感染症の問題など、犬という動物について、もっと関心を持って育てる必要にせまられています。

家族に癒しを与えてくれる犬に、そして、ご近所のみなさんから愛される犬に飼い主さんが育てられるよう、犬の専門ボランティアサークルの協力で、犬との暮らしに関する情報を、市の広報「とよあけ」や市のホームページからお届けします。

《人間社会のルールを教えてね》



2. 動物から受ける癒しの効果

のんびりとした
動物の姿を
眺めていると、
自然に頬が
緩んできませんか？



人と動物の関係

最近ではマスコミなどで、「人と動物の関係」をテーマにした特集記事や番組が多く、みなさん一度はご覧になっていることと思います。

今回は、その本質を知る手がかりとして、人と犬の関係を考える学問の中では、「原始の血の説」と呼ばれている学説を紹介します。

太古の昔、人にとって、動物の様子を観察することは、生死に関わる重要な仕事でした。環境の変化に敏感に反応する動物の動きから危険を察知し、生きる手段としたのです。

例えば、リスや小鳥といった小動物や草食獣の慌てふためく姿は、「肉食獣の接近や山火事などの危険が迫っている」合図であり、反対にのんびりと水辺で憩い、草を食べている姿は「外敵がいない」という合図で、人もその近くで安心して過ごすことができました。このように、動物の様子から周囲の状況を読み取って暮らしてきた祖先の記憶は、今も条件反射として、私たちの遺伝子に組み込まれています。

人を信頼し、くつろぎ眠るペットの姿は、家族に癒しを与えてくれますが、不安や恐怖などの警戒心から体を緊張させているペットが身近にいれば、家族は目にするたびに危険信号を受け取り、無意識にストレスをためていくことになります。ともに暮らしているペットを、まともに世話をしないで放置したり体罰を与えていると、その影響は家族に返ってくるわけです。

縁あって飼い始めたペットには、生涯飼育を原則に、愛情を持って接しましょう。それは、ペットのためだけではなく、子どもの情操教育や、家族の精神的な健康にもつながります。





4. 犬と法律

犬の法律といえば狂犬病予防法。飼い主は、市町村への犬の登録と、年1回の狂犬病予防注射を受けさせることが義務付けられています。

では、「動物の愛護及び管理に関する法律をご存知」でしょうか。

「動愛法」とも呼ばれ、9月20日から26日の動物愛護週間はこの法律の中で定められています。動物を“命あるもの”ととらえる動愛法は、適正な管理や取り扱い方を示して、動物虐待と動物による人への危害・迷惑の両方を防止するものです。また、動物との共生を通して、平和で豊かな人間社会を築く心が国民の間に育まれることが望まれています。詳しくは、環境省のホームページ《自然環境・生物多様性》の項目から《動物愛護》をご覧ください。

このほか、故意でなくても“ワン！”と吠えたときに、転倒骨折した被害者に訴えられた場合などは、民法（718条）が関わってきます。

人への危害や犬同士のケンカなど、飼い犬をめぐるトラブルは少なくありません。最近は、飼い犬を家族とみなす損害賠償保険があるので、万が一に備えて書類を確認しておくといよいでしょう。

そして、なによりも大切なのは犬の問題行動を予防すること。それは、すでに子犬を迎えるまえから始まっているのです。

動愛法...飼い主としてまもりたいこと

1. 習性の理解と終生飼養

犬は人とは違う習性、体のしくみをもつ生き物です。正しい接し方を学び、最後まで責任を持って飼いましょう。

2. 危害や迷惑の発生防止

排泄物や毛、吠え声、放し飼いなどで周囲に迷惑をかけないようにしましょう。

3. むやみな繁殖の制限

生まれてくる子犬すべてに責任が持てないならば、避妊去勢を考えましょう。

4. 動物による感染症の予防

ワクチン接種や予防薬で犬の健康を管理して、人への病気感染を防ぎましょう。

5. 所有者の明記

迷子を防ぐためにも、犬に名札やマイクロチップ（個体識別電子チップ）をつけましょう。



豊明市も条例でフン害防止に努めています。
土をかける埋めるなどして放置せず散歩中の
犬のフンは家まで持ち帰り燃えるごみとして処理しましょう。



5. 理想的な犬選び

いったん犬を飼い始めたら、途中で投げ出すことができません。15年ほどのおつきあいになります。生涯において世話が必要な犬育ては、やがて自立する人間の子供より手間がかかるかもしれません。一方、犬も年を重ねるにつれて病気がちになるのは人間同様です。医療や生活環境の向上により寿命が延び、認知症になる可能性もあります。犬を飼うということは、しつけや身の回りの世話だけでなく、思いのほか健康管理に費用がかかるものです。

衝動的に犬を購入するのではなく『愛情・労力・費用』を犬のために保障できるかどうか、ご家族でよく相談しましょう。

犬を飼う心構えはできましたか？ 癒される犬との暮らしは3つのステップから生まれます。

さあ、子犬を探しに出かける前に、後の問題行動を防ぐための犬選びについて考えましょう。



理想の犬選び

【性格】

家庭犬を選ぶうえで、愛される素質に勝る魅力はありません。最も大事なものは健全な性格です。お目当ての犬は人好きで従順な様子でしょうか？ 人、犬、音、物に対して、どの犬も多少の警戒心がありますが、必要以上に臆病な犬は環境に慣らすのが大変です。チャンスがあれば親犬にも会って性格を見てみましょう。

【健康】

良質な犬の誕生を願うブリーダーは、代をさかのぼって遺伝疾患のない犬を交配に使います。それほど慎重であっても、子犬の将来的な健康が約束されるわけではありません。しかし、子犬の現状だけでなく、せめて親犬の遺伝疾患に関するデータを確認できると安心です。

【犬種】

ライフスタイルに適した犬種を選びましょう。

【入手時期】

生後60日頃までは犬同士のコミュニケーションを学ぶ大切な時期です。人間社会・犬社会、どちらにおいてもスムーズに行動できる母犬は、理想的な子育てをします。母犬のもとでの精神的な成長を待って、子犬を入手しましょう。

ペット購入の契約をする際は、動物取扱業の登録を確認し、動物の特性や状態などの事前説明を受けましょう。



6. 飼育環境と準備するもの

犬は群れで行動する動物。言語を操る人間と方法こそ違うもののコミュニケーションを大切にします。家庭犬にとっては飼い主の家族が群れであり、仲間との距離間を考えれば、室内飼いは犬が精神的に安定する理想的な飼い方です。外で飼う場合は、リビングの窓の近くなど家族の様子を感じられる場所を犬の居住スペースにするとよいでしょう。また、犬種によっては運動が生きていくうえでとても重要なので、ときどきは犬専用グラウンドで思い切り走らせる配慮が必要です。リードを外して犬を運動させることができる施設をチェックしておきましょう。

【ハウス】

私たちの住まいは、犬が身の安全を意識するには広すぎます。体を包み込むような扉付きの箱型ハウスで休息させましょう。成犬になったときにくりりと方向転換できる大きさのものを用意します。子犬には、ハウス内にダンボール箱などを入れてぴったりのスペースに調整すればOK。ペットのホテルや美容室、入院、災害など、ハウスでの待機が必要なときに困らないよう日頃から利用しましょう。



【トイレ】

室内や庭での排泄を習慣づけると、悪天候や忙しくて散歩できない日も、また病気や老後の介護も安心です。成功を重ねて誉めることが排泄場所を教えるポイント。初めは、トイレシートを柵などで囲う工夫をしましょう。ハウスから出して排尿しなければ犬をもう少しの間ハウスに戻して、排尿するまで繰り返します。トイレのあとは監視しながら遊びや食事タイムにしましょう。

【食べ物と食器】

新鮮な水と適切なドッグフードを与え、食器は食事ごとに洗って清潔にしましょう。

【首輪とリード】

名前や連絡先を刺繍した首輪と犬を制御しやすい革製リードがおすすめ。伸縮自在でないリードのほうが、さまざまな危険から犬を守ってやれます。

【おもちゃ】

古くなったからといって人間の生活用品で遊ばせると、犬はやがて家中のものを噛むようになります。丈夫な材質で飲み込まない大きさの犬用のおもちゃを用意しましょう。中におやつやフードを詰めて興味をひき、噛んでよいのはおもちゃだけであることを理解させます。



7.健康管理

接種が義務付けられた狂犬病ワクチン以外にも、たくさんの薬が開発されています。飼い主さんの配慮で病気の苦しみから犬を守ることができ、それは私たちの健康を守ることに भी なります。

薬の後は水を与えて



飲み込んだ事を確認

【ワクチン接種で予防できる病気】

パルボウイルス感染症、ジステンバー、犬伝染性肝炎・喉頭気管炎、レプトスピラ症、犬パラインフルエンザ、犬コロナウイルス感染症は伝染性の強い恐ろしい病気です。接触しなくても、感染動物の行動範囲の環境から病原体ウィルスや細菌が感染します。

☀ 子犬には、初乳をとおして母犬からもらう免疫が消失する頃に混合ワクチンを2～3回接種し、以後は年に1回の接種で感染を予防することができます。獣医師と相談して1～9種ある混合ワクチンの種類を選びましょう。

【腸内の寄生虫】

長さが10cmを越える犬回虫から観察に顕微鏡が必要な原虫類までさまざまな寄生虫がいます。保有犬の糞便とともに排泄された虫卵や幼虫が外界で成長し感染能力をもち、これらが付着した体（毛）を舐めることで感染します。また、母胎やノミからの感染もあります。

☀ 散歩のあとは、肛門周囲や足先、尻尾、草むらで匂いをかく鼻先を清潔にし、年に一度の検便を心がけましょう。また、線虫を駆除できるフィラリア症予防薬もあります。

【心臓の寄生虫・フィラリア】

地域によりますが、予防をしなければ40%を越える犬がフィラリアに感染するといわれています。感染犬には、白い糸状の成虫のほかに産まれた子虫が血流にのって体中にいます。子虫はこのままでは成虫になることはありませんが、吸血により蚊の体内にはいると感染能力を持った子虫へと発育します。この蚊が他の犬を吸血するときに感染子虫を侵入させるので、犬同士の接触がない室内犬にも感染の可能性があります。感染子虫は6か月ほどかけて成長しながら心臓や肺動脈に寄生。成虫は15～30cmほどにもなり、やがて動脈硬化や心不全を引き起こします。

☀ 毎月投薬する方法が主流で、心臓へ到達前に駆除できます。感染が可能な期間は確実に予防しましょう。

【皮膚の寄生虫・ノミとマダニ】

保有犬との接触や草むらから体に付着します。吸血によって皮膚炎や貧血をおこし、ノミは瓜実条虫をマダニはバベシア原虫などを媒介します。

☀ ノミは産卵前、マダニは吸血前に駆除する薬が普及しています。活動期間か一年を通して毎月投薬しましょう。



8. 健康チェックと手入れ

日に一度は犬の体を触りましょう。わたしたちの五感をとおしたふれあいは、病気の早期発見とコミュニケーション作り、そして、人の手が大好きな落ち着いた犬に育つメリットがあります。



健康チェックと手入れのポイント

目ヤニはありませんか？ 耳は垢や嫌な臭いはありませんか？
眠気もないのに鼻が乾いていませんか？
歯茎の色はピンクですか？
足裏に切り傷やトゲはありませんか？
草の実などで毛玉ができていませんか？
皮膚に湿疹、腫れ物はありませんか？ 肛門周囲は清潔ですか？



ハウスやトイレといった生活用品のほかに手入れ用の道具を準備します。しかし、シャンプー後のドライヤーでさえ、犬にとっては訳のわからない危険なものとしか目に映らないことを理解しましょう。

実際に手入れを始める前に、道具を見せる、音を聞かせる、体に触れさせるなど、ごほうびを使ったアプローチが大切です。なお、被毛の手入れはご近所の迷惑にならないように気をつけましょう。

すでに噛まれて怪我をしている飼い主さんは、無理に犬を触るのは危険です。ボディタッチのトレーニングにもコツがありますが、まずは犬との関係を修復しましょう。

【被毛のブラッシング】

被毛は長さに関係なく頻繁に手入れをしましょう。毛並みを整え抜け毛が減るだけでなく、血行がよくなり皮膚病を予防します。

【歯みがき】

ブラシやガーゼで歯をみがきます。歯石が気になるようなら、歯周病になる前に病院で取り除いてもらいましょう。

【耳そうじ】

汚れが付着しやすいのは立ち耳、雑菌が繁殖しやすいのは垂れ耳。どちらも、ときどきイヤークリーナーと柔らかいカット綿などで清潔にします。耳の奥は傷つきやすいので、獣医師にお任せしましょう。

【つめ切り】

ツメは筒状に伸びます。伸びすぎは雑菌の住み家になるので、中の血管に注意して定期的にツメをきりましょう。不安な場合は獣医師や美容師にお願いしましょう。



【シャンプー】

犬が健康なら、2週間から1か月に1度はシャンプーをしましょう。



9. リーダーとルール

「理想的な犬選び」「適切な飼育環境と健康管理」に続く、問題行動を予防する最後のステップ「犬の行動学に基づくしつけ」について回を分けてお届けします。犬のしつけとは、“お手”や“おかわり”のような芸ではなく、人社会で暮らすためのルールを教えることを指します。家庭犬のしつけで最優先されるのは、噛まない落ち着いた犬にすることです。迷子や非常災害など、家族と離ればなれの生活を余儀なくされるとき、お世話になる人に唸る・噛むといった行動にでる犬の運命を想像してみてください。まさしくしつけは犬の命綱であり、家族や社会から愛される犬になるよう、細やかな配慮と手助けをするのが飼い主の役目です。

【頼りになるリーダー】

自然界の哺乳類は群れを形成して生きているものが多く、形態は様々です。学術的にライオンの群れはプライド、チンパンジーではファミリー、犬族のオオカミではパックと呼ばれています。群れには強くて信頼できるリーダーが存在し守るべき規則があります。家庭犬にとっては飼い主の家族がひとつの群れ（パック）であり、飼い主がリーダーになれば犬は精神的に安定します。

毅然とした態度で状況に応じて的確な指示を出すことができ身を守ってくれる存在を、犬はリーダーと認め喜んで従います。強いといっても、暴力で服従させるのがリーダーではありません。しかし、過剰に甘やかし過ぎる飼い主はリーダーとして頼りないと判断されやすく、犬は代わりに自分が群れ（家族）を守らなければという使命感に駆られるでしょう。こうなると、犬は犬のルールで家族を統率し、意に反する者には唸り、噛んで諭すようになります。うちの犬は問題犬だと嘆くまえに、ご自身の犬への接し方を振り返ってみましょう。

【家族のルール】

人にあいさつする際のマナーにはじまり、来客のもてなし、家族の食事、留守番、排泄、寝るときなど、様々な場面を想定して適切な対処のしかたを犬に教えましょう。

そのためには、ソファに乗ることを許すのかどうか、といったひとつひとつのルールをご家族で話し合う必要があります。ただ、ルールが家族間で統一されていなかったり、飼い主の機嫌によって変わるいい加減なものだと、犬は困惑するばかりで、失敗を重ね自信をなくしていくので気をつけましょう。



10. 落ち着いた犬

「噛まない落ち着いた犬」に必要なのは、環境への適応力。メス犬をめぐる犬同士の争いを防ぐためには避妊去勢をおすすめします。ほかに犬が攻撃的に噛むのはどんなときでしょう？ 真に攻撃性のある犬は少なく、大切に思うもの（フードやおもちゃ）を守る、危険から身を守るためなどが考えられます。ものや身を守る警戒心に注目してみましょ。犬が天下の一大事のように危険視する対象は、わたしたちからしてみれば安全なものであることがほとんどです。つまり、ただの散歩中の犬や礼儀正しくあいさつする（ニオイを嗅ぐ）犬であったり、通り過ぎる車や自転車、果ては傘や掃除機、配達業者や走り回る子どもなどです。飼い主として、周囲の環境に慣れさせる“犬の社会化”に積極的に取り組みましょ。どれほど警戒心を除くことができるかが「噛まない落ち着いた犬」にするポイントになります。



【犬の社会化】

子犬は生後60日までに母犬や兄弟犬から犬のコミュニケーションを学び、さらに好奇心旺盛な16週ころまでが社会化に最適の時期となります。生涯に出会うさまざまな人・施設・道具・音を犬に紹介しましょ。犬に人間のような応用力は期待できません。例えば、隣人は安全だと理解しても、年配者あるいは子ども、マスクをつけたり傘を持った人は犬にとってはまた別問題です。豊富な体験から犬は自信を育み、どんな状況でも落ち着いていられるようになります。

ワクチン接種中で病気感染が心配な子犬は、抱いて街に出るとよいでしょう。ワクチン完了後は、子犬同士または社会性のある成犬と交流する機会をつくり、犬社会のルールも学ばせます。なお、臆病な犬の社会化は慎重に計画して、少しずつ苦手なものを克服していきましょう。

【フードやおもちゃを守る犬】

犬の食事中に人が近づくと威嚇するようでは困ります。子犬のときから以下の練習をしましょ。フードを飼い主の手のひらから食べさせる 容器を持って食べさせる 横について容器にフードを少しずつ入れながら食べさせる 食べている犬に時々近づき容器におやつを追加する。

から を繰り返すうちに、警戒どころか犬はごほうびなしでも人を歓迎するようになります。また、おもちゃは与えたままにせず、飼い主の所有物であることを教えましょ。

【危機管理】

「噛まない犬」にするしつけに完璧はありません。飼い主の目の行き届かない公共の場（買い物の店先など）に、犬だけを待たせるようなことは避けたいものです。しつけに加えて危機管理を怠らないことが大切です。



11. 優しくなでる

緊張する犬を安心させ、興奮を静めるもの。それは「手」です。わたしたちが素晴らしく魅力的な手を持っていることを犬に教えましょう。体中どこでも触ることができるようにするボディタッチのトレーニングは、「噛まない落ち着いた犬」を育てます。また、日頃の犬の手入れや動物病院での診察に役立ち、飼い主がリーダーであることを犬に伝える効果もあります。触られることに神経質な犬もいるので、無理をせず時間をかけてステップアップしていきましょう。なお、飼い主に噛む・噛むなど、すでに攻撃性のある犬には関係修復を最優先します。

【優しくなでる】

一口で飲み込める小さなおやつをごほうびに用意します。はじめは、エネルギーを発散させたあとや眠そうなときを見計らってトレーニングをしましょう。犬がうっとりとして眠ってしまうほど優しく手を動かし、穏やかな口調で「いいこだね」と話しかけます。

まずは、犬があまり嫌がらない胸や横腹からなでてみましょう。犬が静かにしていいたら、ほめてごほうびを与えます。触る→ほめる→おやつを繰り返し慣れたら、急所のお腹や敏感な先端（尻尾・足先・足裏・耳・鼻）へと触ることのできる部分を増やしていきます。上達したらおやつを減らしごほうびはほめ言葉だけにします。元気のよすぎる犬は膝にあお向けに乗せ、犬の背中を飼い主さんにぴったりくっつけるようにして、静かになるのを待ってからなで始めましょう。



【全身を健康チェック】

なでられることが大好きになったら、本格的に手入れの練習にチャレンジしましょう。

全身の健康チェック	被毛のブラッシング
足拭き	歯みがき ツメ切り

トレーニングの注意点

🐾 ごほうびの与え方を逆 ほめる→おやつ→触る にすると、触られることに神経質な犬はほめ言葉やおやつが嫌いになります。「おやつをもらったから練習を頑張ろう」とはならず、「おやつをもらおうと嫌なことをされるみたいだ」と犬は感じてしまうので気をつけましょう。

🐾 手の魅力を印象づけるためには、ふだんから手による恐怖感を犬に与えないようにしましょう。手で叩いて（雑誌などを丸めて叩くのも同じ）叱ることは禁物です。

🐾 優しくなでることは大切ですが、あくまでトレーニングとして毅然とした態度でおこないます。毎日の積み重ねで犬との絆を深めましょう。



12. 犬の会話

犬と会話ができたら楽しいですね。
一時、流行した犬の感情分析グッズを試した人もいらっしゃるでしょう。

首輪に装着したマイクで受けた鳴き声を分析して、パターン化した言葉に変換するといったものでした。この鳴き声を含めて、実は犬はもっと複雑な方法で意思を伝達しています。犬のコミュニケーション術を学んで暮らしに役立てましょう。

遊びを誘うポーズ
ケンカではありません。「これから始まる
追いかっこやレスリングは本気でなく遊
びだよ」の約束のしぐさです。



【ボディーランゲージ】

わたしたちのパートナーとして犬が活躍できるのは、もともと共同作業を楽しむ動物だからです。群れで狩りを行う場合、チームワークひとつで獲物を逃がしてしまいます。無意味な仲間争いは群れの餓死につながることから、巧みなコミュニケーション能力は生きていくうえで不可欠なものでした。ただ、この能力も学び使う機会がなければ、仲間への挨拶もできない犬になってしまいます。

人は音声言語が主体ですが、犬は全身を使って会話をします。つまり、耳・尾・背中の中毛・目・口元といった身体の部分の様子、姿勢、動作、鳴き声などを組み合わせて意思を伝えあうボディーランゲージと呼ばれているものです。わたしたちも音声言語の補助として、表情や手振り、肩をすぼめるなどの身振りを使います。多少の誤解を生む危険性があるものの、ボディーランゲージは使用言語の異なる異民族間でも分かり合えるメリットがあります。ジェスチャーを積極的にしつけに取り入れてみましょう。

【犬の特性を活かした暮らし】

🐾 犬の行動を予測して主導権を握るのがリーダーです。表情や動作の読み取りを得意とする犬が、一日中家族の一挙手一投足を観察しているわけですから、反対に犬に行動の先を読まれないように気をつけましょう。例えば、留守番や散歩・遊び時間を予測させることは問題行動につながることもあります。

🐾 手の動きで「オスワリ」「フセ」などの姿勢に犬を誘導することができます。その際の指示は、言葉だけよりも手の合図を加えるほうが効果的です。また、指示や「ほめる・叱る」ための言葉は短く、声にはっきりとした変化をつけましょう。長いと犬は理解しづらく教えるタイミングを逃がします。

🐾 犬の服は背中の中毛を逆立てるなどのボディーランゲージを妨げ、不要なケンカやストレスを招く原因になります。多くの犬が自由に交流するドッグランのような場所では、服を控えましょう。



13. カーミングシグナル

犬のボディーランゲージで特に大切なのは、相手と自分を落ち着かせる行動です。犬にも狼と同じ

ように争いを避ける技術があることを、犬の専門家トゥリッド・ルーガスが発見しカーミングシグナルと呼びました。カーム (calm) は落ち着かせるという意味。30以上ともいわれているシグナルの中から代表的なものを紹介します。犬同士のトラブルに巻き込まれない犬は、よく観察すると多くのカーミングシグナルを使っていることがわかります。

🐾 観察してみましょう 🐾

ひとつのしぐさを集中観察するのがシグナルを見つけるコツです。自分の犬が他の犬

を認識した瞬間を逃がさず、耳など部分的なところから体全体へと変化を確かめます。もちろん、犬はわたしたちにもシグナルを送っています。観察のレパトリーが増えたらその活用法を考えてみましょう。

『逆らわないよ。
よろしく〜』



【友好的に相手の様子をうかがう】

初対面や久しぶりの犬にあいさつする場合、視線をそらしてゆっくり歩き（動く）・カーブを描いて（渦を巻くように）近づきます。そして、犬の名刺であるお尻のニオイを確認しあいます。相手を直視してつかつかと近づくのは、そのつもりがあるないに関わらず攻撃的と受け取られ、双方が会話に未熟な犬ならば争いになるかもしれません。

【メッセージの交換】

相手の緊張感によっては、顔をそらす・体をそらす（横向き、後ろ向き）・すわる・伏せるなどして敵意がないことを伝えます。無関心をよそおい急に地面のニオイをかぎだすこともあります。犬によっては相手の顔や口元をなめて好意を表したり、体を小さく丸める・お腹を見せるなど子犬のように守られるべき存在であることをアピールします。おじぎのポーズで、リズムカルな動きを伴うのは遊びの誘いですが、静止している場合はカーミングシグナルです。同じポーズでも耳を立て牙を見せて唸っているときは攻撃の前兆ですので気をつけましょう。

【ストレス解消法】

何をしてよいのかわからなくて困っているときや不安を解消するためにまばたきをする・前足を持ち上げる・あくびをする・体を振る・体を掻く・鼻をなめる・地面のニオイをかぐといった行動がみられます。これらはとってつけたかのように行動し始めることで生理現象と見分けられます。興奮を予感して間に割ってはいり、争いを収めようとするのもカーミングシグナルのひとつです。



14. カーミングシグナルの活用

犬も人と同じように、
「置かれている状況への
対処がわからないこと」

がストレスだといわれています。その感じ方は犬によって違い、鈍感過ぎると不測の事態にすばやく反応できません。しかし、敏感過ぎても自己防衛のスイッチがすぐに入り、威嚇や攻撃行動に発展してしまいます。犬のシグナルを読み取ることができるなら、問題を起こす前にストレスをやわらげたり、その原因を取除きやすくなります。

【怖がりの犬に近づく】

- 視線を合わせない
- ゆっくり動く
- カーブを描き近づく
- 後ろ手におやつ
- 犬がくるのを待つ



人慣れの練習は友人を自宅に招いて協力してもらいましょう。スムーズに手のおやつを取りにいったら優しくそっとほめてもらいます。オーバーアクションや、なでようと覆いかぶさるのは威圧感を与えるので気をつけるよう説明しておきます。犬に自発的な行動を促すのがポイントです。なお、身長が低い子どもなら犬は平気だと思いがちですが、怖がりの犬は活発に動き回る子どもほど苦手です。来客時に不安を解消するためのシグナルを絶えず出す犬はハウスに避難させましょう。

【犬の興奮を静める】

飼い主との遊びに興奮した犬には、静止する・背を向けるのが有効的です。散歩で会う犬に吠えるなら、犬同士相手に背を向け視線を外させ、すわらせてみましょう。

【トレーニングに取り入れる】

トレーニング中にあくびをする・そっぽを向く・体を掻くなどのシグナルを出したら、犬は混乱しています。ふざけているように感じて犬を叱っては逆効果です。確実にできる簡単な指示を出してほめ、犬の自信を回復していったん練習を打ち切ります。トレーニング内容の進め過ぎ、威圧的な指示、長過ぎる時間や不安な環境などを見直しましょう。

【ドッグランなどでの犬同士のあいさつ】

他の犬に遠回りでのろのろと近づき、体を小さくするなどの行動は友好的なカーミングシグナルです。そのような犬をふびんに思い、堂々とした態度を無理強いしないようにしましょう。可愛さのあまり犬を擬人化して考えず、争わない行動をほめて社交性を育てましょう。

一方、相手の肩にあごや前足をのせるのは挑発的です。自分の立場が不安で、出会うたびに力試しをするタイプの犬もいます。小競りあいで納得すればその場はおさめますが、犬同士の緊張が長く続いて限界と感じたら、相手の飼い主さんにも声をかけて互いに犬を呼び戻しましょう。



15. 子供と犬

動物好きな子は犬を見つけると触りたくなるものです。しかし、犬のすべてが子ども好きとは限らず、尾をふっているから喜んでい
ると思って近づくのは危険です（犬は警戒時にも尾をふる）。犬との出
会が増える夏休みは、子どもが上手な付き合い方を学ぶチャンスです。
カーミングシグナルを手がかりに犬にも感情があることを教えましょう。
一方、飼い主側は通行人の手が届かないように犬の居場所を工夫して、
咬傷事故から子どもを守りましょう。また、犬の散歩は子どもの手伝い
仕事には向きません。おとなしい犬や小型犬であっても散歩には必ず大
人がつきそいましょう。

犬を見つけたら
走りまわらないでね。
ワー！キャー！と
大声をださないでね。

犬をさわりたいときは
かいぬしさんに
きいてみよう。
さわってもいいですか？

犬がるす番してい
るときはざんねん
だけど犬をさわる
のはかいぬしさん
がいるときにしよう。

かいぬしさんに
いいといわれたら
じこしょうかいしてみよう。



かいぬしさんに
ことわられたら
とってもこわがりな
犬です。
じーっと見つめ
ないでね。
走っておどかさな
いように
さよならしよう。

犬へのあいさつは
ゆっくりしゃがむ。
やさしくグーにした
手をしずかにさしだして
まちます。

犬が近づいて
くれなかったら

犬が手のニオイをかぎにきて
うれしそうだったら
そっと手をひらいてむねをなでてみよう。

子どもとふれあいをさせると
きは、飼い主が責任を持って触
り方を指導して見守りましょう。
子どもが苦手な犬ならば、てい
ねいに理由を説明して断るこ
とも大切です。

こうえんやどうろにまいごの犬がいたら
犬は走るものをおいかけます。
見つめないで知らんぷり。ゆっくり遠ざかるか、こわいけど、
うでをくんでじっとしていよう。
近くのおとなかおうちのひとに知らせてね。

16. ほめて しつける

犬のトレーニングは犬にやらせるのではなく、「犬を動かす方法を自分が覚える」という心構えで行います。どんなに性能の良い車を持っていたとしても、ドライバーに技術がなければ車は安全に走りません。犬のトレーニングは運転免許を

取得するのに近い感覚かもしれません。さて、ここ20年、専門家によって犬の生態が詳しく分析され、犬の正しい扱い方が認識されてきた結果、「陽性強化」といったほめてしつけるトレーニング方法が世界的に用いられるようになってきました。ほめることの大切さを考えてみましょう。

🐾 叱ることの難しさ

体罰や過度な叱責に対しての犬の反応は様々です。

臆病な犬は怖がる。賢い犬は見つからない方法を考える。

楽天的な犬は罰と叱責に慣れっこになる。ものごとを教える段階での叱るという行為は犬の混乱を招き不信感も生まれます。

🐾 犬の信頼を得る

犬の脳は重要でないものを排除する能力があります。「イケナイ」を繰り返す、怒鳴っても従わないときは放っておく、どちらも犬をコントロールしている錯覚におちいりますが、これらが日常茶飯事になると犬は慣れっこになり、重要ではないと学習して注意を払わなくなってしまう。

犬の聴力の範囲は人の4倍、ボリュームは6倍といわれています。信頼関係があれば、ささやくだけで隣にいる犬はすわるのです。犬の信頼を得るためには、出した指示は誘導してでも完結させる一貫性と、ほめる・叱るにメリハリをつけた犬が理解しやすい態度を心がけましょう。

🐾 効果の法則

犬にとって心地よさと結びつく行動は繰り返す確率が高まり、不愉快と結びつく行動は避ける。これは科学的に導かれた学習理論です。わたしたちが宝くじは当たったことのある売場で買うのと同じです。

してほしい行動を犬がとったとき、ほめるとともにおやつ・ボール遊び・散歩などを有効活用すれば、犬はわくわくしながら飼い主の指示を待つようになるでしょう。



🐾 笑顔でトレーニング

生活用品をかじられては「イケナイ」と叫び続けるより、かじってよいおもちゃを教えるほうがわたしたちも犬もハッピーです。「いけないこと」を叱るより、「していいこと」をほめましょう。

犬は飼い主さんの笑顔が大好きです。



17. 失敗をさせない

トラブルは未然に防ぐことがトレーニングの早道です。失敗は重ねるたびに習慣化していくので、失敗をさせるような要因をつくらないことです。いたずらをして困るとなげく前に今一度、犬のおかれた環境を見直してみましょう。家族が無意識のうちに問題行動を誘う状況をつくっていませんか？飼育環境を整えればしつけはとても楽になります。

予測できるトラブルと対処例

- 🐾 靴やスリッパをかじる
 - 犬専用のおもちゃを教えるまでは片付ける。
生活用品をおもちゃとして与えない。
- 🐾 ごみ箱をあさる
 - ふたをする。
- 🐾 テーブルのお菓子を食べる
 - 片付ける。
- 🐾 目をはなしたスキのいたずら
 - 心配なときはハウスに入れる。
- 🐾 家族の食事中に食べ物をねだる
 - 食卓から食べ物を与えない。
- 🐾 通行人に吠える
 - 通行人が見えないように工夫する。
- 🐾 飛びつく
 - 構わない。飛びつく前にすわらせる。



来ない状況での「オイデ！」が失敗を誘う

自分が犬をどれくらいコントロールできているのかを知っている飼い主さんは犬に失敗をさせません。犬の失敗が予測される状況で、むやみやたらに指示をださないからです。

トレーニングも犬をよく把握して目標をたてましょう。毎回、復習から始めると教えたことを犬が確実に学んでいるかがわかります。また、ステップアップは教科書どおりにはいかないものです。なんでも器用にこなす犬がいる一方で、ゆっくり覚えた犬は意外に確実性があるというのはよくあること。焦りは禁物です。

間違いを学習のチャンスにする

学習が確実でないためにおきるトレーニングでの失敗は、犬が飼い主の指示に従おうと努力したものの間違ってしまった行動です。叱らないでください。そのまま放置せず「違うよ」と伝えて必ず正しく誘導し、できたらほめましょう。こうすることで、何が間違いで何が正しいのかを犬は楽しみながら学びます。



18. ごほうび

尻尾をちぎれんばかりに振るほど犬を喜ばせることができますか? トレーニングを犬が心待ちにする楽しいイベントにしましょう。

【ごほうび選び】

ほめるタイミングは瞬時です。トレーニングの流れを止めることのないものを選ぶのがポイントです。おもちゃは「オスワリ、フセ、マテ」などを学ぶ犬の落ち着きを邪魔することもあり、「オイデ、ツイテ」など動きのある練習に向いています。また、肥満犬にしないよう、ごほうびであっても与えるおやつ量の量に気をつけましょう。

🐾 食べ物

砕けてこぼれないおやつを一口で飲みこめるサイズにカットしポーチ（ポケット）に準備。1日分のドッグフードから一握りを使うのもよい。医師の処方食しか与えられない場合は、チーズなどといっしょに袋に入れて匂いを移し、ドッグフードを特別なおやつにグレードアップすることもできます。

🐾 おもちゃ

ロープつきなど取りあげやすい形状のもの。

🐾 飼い主

ほめ言葉。 なでる。 笑顔。
いっしょに走る・遊ぶ。



【ごほうびリスト】

何がどのくらい好きなのかを犬に試しベスト5リストをつくりましょう。新しい学習やステップアップするときが一番のごほうびを使い、慣れるに従ってランクを落としていきます。

【ごほうびプラスほめ言葉】

高いトーンで「いいこだね」「おりこう」などと声をかけます。甲高い声は犬を苛立たせるので注意。反対に低いトーンは叱るときに有効的です。「いけない」「ノー」と一言。「犬同士の威嚇」の唸り声をイメージしてみましょう。

【犬に伝わる笑顔】

ほめる態度に差があるように、犬の受け取り方にも個体差があります。犬が喜ばなければほめる効果を期待できません。鏡に向かって笑顔の練習をしておきましょう。

【飼い主の魅力】

捕獲本能のある犬にとって、ごほうびは獲物。獲得できるかどうかの期待感から犬の関心はごほうび自体からそれを与える飼い主へと変わります。教えた行動を犬がスムーズにとるようになったら、ごほうびは減らしていき宝くじのように使います。持っていないように見せかけマジシャンのようにごほうびをあやつる、飼い主こそが一番魅力的な存在になりましょう。



19. アイコンタクト



オイデ! と呼んだら、足もとに走り寄り飼い主を見つめる犬に育てましょう。愛犬の瞳にあなたが映っているのを確かめられますか? 犬と視線を結ぶことをアイコンタクトといいます。犬にものを教えるときは、犬をその気にさせなくてはトレーニングが始まりません。まずは犬の集中力を飼い主に向けさせる練習をしましょう。

【プレゼントの準備】

犬をほめるチャンスを見逃さないように、ごほうびに使うおやつをポケットに入れておきます。

【プレゼントの契約】

犬が良い行動をしているときに近寄り、「いいこ! 」と言いながら素早くおやつを口に放り込みます。練習は1回1秒で終わり簡単です。

「悪さばかりして、うちの犬はいいこじゃない」とおっしゃる飼い主さんが多いのですが、犬の良い行動とは、吠えていないとき、緊張していないとき、警戒していないときなどのことです。

みなさんの犬はたくさんよいことをしています。

《良い行動はほめるし、たまにプレゼントも出す》

契約を一日かけて犬と結んでおきましょう。

【名前にプレゼント】

2日目からは犬の名前を付け加えます。「モモ、いいこだね～」とほめて口におやつを放り込みます。犬は自分の名前を“得”なものと記憶します。今後は犬の名前を呼んで叱らないようにしましょう。

【誘導するアイコンタクト】

近寄って名前を呼ぶことに犬が反応するようになったら、おやつを犬の鼻先から、自分の鼻先へと引き寄せます。そして、犬と目が合った瞬間（飛びつく前）に、ほめておやつを与えます。初めはおやつを見ているだけですが、そのうち飼い主と目を合わせればプレゼントが出ることに犬は気づきます。

犬を飽きさせることのないよう、1回に3度も練習すればおしまいにしましょう。短く切り上げ、1日に練習する回数を増やすほうが成果的です。

【手の合図でアイコンタクト】

おやつで誘導してのアイコンタクトがスムーズにできるようになったら、次は何も持たないでやってみましょう。名前を呼んでから、軽く握った手を自分のあごの下あたりに保ちます。犬がアイコンタクトをとったらほめてポケットからおやつを与えます。

上達したら、ほめ言葉だけにしていきますが、おやつを完全になくすのではなく、ときどきは与え犬に期待感を持たせましょう。アイコンタクトの時間を1秒、3秒と、失敗しないようにほんの少しずつ延ばしていくと、これがマテのトレーニングへとつながっていきます。



20. 基本動作



お願いがあるとき、『飛びつくのではなく
オスワリをすれば話を聞いてもらえる』ルール
を犬に教えましょう。人へのあいさつ、玄関・門
・車など扉を開ける、興奮を静めるなど、オスワリ
ひとつ指示できるだけで、解決きる問題はたくさん
あります。

【 オスワリ 】

オスワリは人差し指を立て、残る指でおやつを持
ちます。おやつを犬の鼻先から頭へとずらすと、犬はおやつを見るため
に上を向き、自然にお尻を下におろします。すかさず「いいこ」とほめ
ておやつを与え、犬が姿勢を崩す前に自由にしてよいという指示を出し
ます。「OK」と言って一緒に動くうちに、犬は指示の意味を理解します。

誘導する際の手がオスワリのサインになります。飼い主の口もとでこ
のサインをつくるだけの簡単な誘導に変えても、犬はアイコンタクトと
オスワリの動作両方をするようになります。犬も飼い主もスムーズに動
けるようになってから、初めて「オスワリ」という声の指示を加えると、
指示を出したのに犬ができないという失敗がありません。

オスワリが確実にになったら、ごほうびを減らしていきます。おやつを
ランダムに出す、また、「持っていないよ」と言っておいて犬がオスワ
リをした瞬間にポケットから与える『おやつの後出し』などのテクニッ
クで、犬に期待感を持たせましょう。

「犬 の名前」→おやつで誘導→「いいこ」おやつ→OK

「犬 の名前オスワリ」&おやつでサイン→「いいこ」おやつ→OK

「犬 の名前オスワリ」&サイン→「いいこ」→OK

【 フセやタッテ 】

おやつに犬の鼻先を磁石のようにつけながら、おやつを動かし犬の頭
をコントロールすることで、オスワリからいろんな姿勢に犬を誘導できます。

【 オイデ 】

同じように、おやつを犬の鼻先へ持っていき、そのまま後ずさりする
と、犬もおやつにつられて一緒に動きます。

これが初歩の誘導によるオイデです。

【 マテ 】

アイコンタクトが外れるときが犬の集中が切れるとき。早めに「OK」
の指示を出しましょう。その場で足踏みするなど飼い主が動いても、犬
が安心して待てるように練習していきましょう。

それぞれの指示にサインも考え、「オスワリ」を「フセ」や「タッテ」
「オイデ」「マテ」と言い換えて ~ の練習をしましょう。



21. 予防医療

病気になってからあわてて病院に行くより、日頃からできる限りの病気を予防しておきましょう。それは、人と動物の間でお互いに感染する病気から、一緒に生活する人を守ることにあります。

【繁殖能力とストレス】

メス犬は、早くは生後6カ月ごろに最初の生理があり、ほぼ半年ごとに繰り返します。一方、オス犬は生後6～8カ月で繁殖能力をもつと、一年を通して生理中のメス犬に反応します。近所や散歩先のメス犬が生理になれば、一年中、子孫を残そうとフェンスを飛び出したくなるのです。

人間の倫理感で犬の繁殖意欲はコントロールできず、とくに複数の犬が集まる場所では、未避妊・未去勢犬はトラブルの原因になります。

避妊去勢手術は望まない妊娠を防ぐほかに、たくさんのメリットがあります。繁殖能力が備わる前に手術について動物病院で相談しましょう。

避妊去勢手術のメリット

- 🐾 病気を予防。(メス犬：乳腺、卵巣、子宮の病気)
(オス犬：前立腺、精巣、肛門周囲の病気)
- 🐾 生理開始から40日間の外出制限から解放。
- 🐾 オス犬の逃亡を予防。
- 🐾 オス犬特有の攻撃抑制とマーキング減少。
- 🐾 精神的に安定し飼い主との関係が改善。

【動物病院選び】

- ☐ 予防医療の提案。
- ☐ 診療時間外の対応。
- ☐ 緊急時の搬送可能な距離。
- ☐ 治療方法と費用についての明確な事前説明。
- ☐ 他の獣医師の意見を希望した際の理解と協力。



狂犬病予防接種以外にも、混合ワクチン接種・フィラリア＆ノミダニ予防・腸内寄生虫検査・避妊去勢など、飼い主がすべきことは多く医療費はかさみます。

しかし、人と動物の共通感染という視点に立てば、このような予防医療は犬と飼い主家族を守るだけでなく、社会の公衆衛生上とても重要な医療です。必要な医療を推奨する獣医師はわずらわしい存在ではありません。反対にそのような先進的な考えをもった獣医師がいてこそ信頼できる動物病院といえます。

予防薬を受け取る際などにも犬を診てもらっていると、獣医師は健康なときと体調のすぐれないときの犬の様子が比較しやすくなります。ホームドクターとは日頃からコミュニケーションをとっておきましょう。



22. 飼い主としての心構え



しつけのいき届いた犬は行儀がよく、外出する機会が多くなり、さらに社会性を身につけていきます。犬を伴って食事や宿泊のできる施設が増えたことで、最近は高速道路のパーキングエリアでもよく犬を見かけますが、ドライブや旅行の際は犬の苦手な人がいることを意識した行動を心がけましょう。

さて、常に飼い主家族と過ごす犬がいる一方で、飼育を放棄される犬もたくさんいるのが現実です。しつけの悩み、引越し、病気治療や老犬介護の手間、飼い主自身の病気など、放棄の理由はさまざま。手放した犬はどうなるのか考えてみましょう。

〔飼い主の責任〕

環境省が告示した基本指針をもとに、愛知県が「動物愛護推進計画」をまとめました。計画には、動物と子どもが触れ合う活動の推進などとともに、21年度からの10年間で犬猫の殺処分数を半減する取り組みが盛り込まれています。

平成23年度、県内で収容された犬は約2200頭。約300頭は飼い主が処分のために持ち込んだ犬で、残りは捕獲犬です。その6割は飼い主が探している様子はありません。この中から、子犬だけでなく成犬も譲渡や「ふれあい訪問犬」に育てるなど、施設の地道な努力でおよそ1100頭が命を救われていますが、半数は殺処分です。

殺処分数の削減は行政だけで解決できる問題ではありません。不幸な犬をつくらないことが一番です。ペットブームに惑わされることなく、15年ほどの飼育に不安があるならば飼わないという決断も大切です。また、安易な繁殖や犬の販売流通システムなどに関心を向けるのもよいことでしょう。

〔里親を探す 里親になる〕

どうしても飼いつづけることができなくなったときは、「犬の引き取り」を申請することになりますが、その前に里親になってくれる人を探し、犬に生存の機会を与える努力をしましょう。一方、犬を飼いたい人は、収容施設や不幸な犬に里親をコーディネートするボランティア組織から、犬を選ぶことも素敵な選択です。

〔最期まで家族の一員〕

犬との暮らしは楽しみばかりではありません。かわいい子犬や活発な若い時期はあっという間に過ぎ、やがて病気や老齢による介護が必要になるときは訪れます。世話が困難な時ほど飼い主の真価が問われますが、それぞれの飼い主がそのときにできることすればよいのです。生涯にわたって動物を慈しむ親の姿勢から、子どもたちは子犬の誕生よりも深く生命について学ぶことでしょう。縁あって迎えた犬は、最期の別れまでずっと家族の一員なのです。

